

会 議 録

1 会議名

第 49 回上越市美術展覧会 第 3 回運営委員会

2 議題（公開・非公開の別）

■報告

- ・ 第 49 回上越市美術展覧会の結果について（公開）

■協議

- (1) 第 50 回上越市美術展覧会について（公開）
 - (2) 第 50 回記念企画について（公開）
 - (3) 無鑑査出品候補者の推薦について（公開）
 - (4) その他
- ・ 作品受付と作品審査補助の業務委託について（公開）

3 開催日時

令和 2 年 2 月 20 日（木） 午後 1 時 30 分から

4 開催場所

上越文化会館 中会議室

5 傍聴人の数

0 人

6 非公開の理由

なし

7 出席した委員（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

委 員：洞谷 亜里佐（副委員長）、小林 充也、五十嵐 正、大藏 豊彦、兪 期天、
押木 秀樹、山田 真一、藤野 正二、関 敏雄、木村 隆（以上 10 人出席）

事務局：小嶋課長、北澤係長、池亀主事

8 発言の内容

■報告

- ・ 第 49 回上越市美術展覧会の結果について

（事務局）：（資料 1 ページから 11 ページまで資料に基づき説明）

（大藏委員）： アンケートに 1 会場での開催についての意見が多くみられる。事務局では、

今後1会場開催について何か考えがあるのか。

(事務局) : ここ数年の出品状況から、中庭周囲のオープンスペース等を使ったとしても全部門をオーレンプラザで展示することは計算上難しいと考えている。事務局としては、1会場開催のため、入選点数を絞る等の案を考えたことはある。もしこの案に賛同する声が多いようであれば、来年度は第50回であるため規模縮小と捉えられかねない懸念もあることから、第51回以降に向けて協議を始めることも考えている。

(兪委員) : オーレンプラザ周辺に会場にできそうな場所はないのか。高田図書館や古径邸であれば高田公園内を回遊しつつ各会場に向かうことも可能に思える。

(事務局) : 来年度リニューアルオープンする小林古径邸美術館の企画スペースや高田図書館にも市民ギャラリーがあるため、今後検討していきたい。

(五十嵐委員) : 県展の巡回展で利用している教育プラザの体育館では収まらないのか。可能であれば、今ある施設の中でやりくりするしかないだろう。

(事務局) : 教育プラザの体育館であれば全部門を展示可能だが、現在の市展はオーレンプラザとミュゼ雪小町を会場とすることで人の動きを作り、高田の街中を活性化させることも狙いとしている。しかし、実際に出品者、観覧者から1会場開催を求める声強い現状、体育館での開催について検討することも必要と考える。

(関委員) : ミュゼの駐車場について、ゆっくり鑑賞したい人もいる中で、時間制限があるというのはオーレンプラザに比べ環境が良くないと思われる。今後もミュゼを会場とするのであれば考える必要がある。

■協議

(1) 第49回上越市美術展覧会について (公開)

(事務局) : (資料12ページに基づき説明)

例年、市展は10月第3週の3連休最終日を閉会日としてきたが、来年度は東京五輪の関係上、第3月曜日が祝日ではなくなるため、閉会日を10月11日(日)としたいと考えている。理由として、平日の平均観客数が休日に比べ少ないことと、作品返却を両日ともに平日にすることが出品者の負担になることの2点が挙げられる。

(運営委員) : 異議なし。

(事務局) : 開場式について、市展はこれまで会期を9日間としてきたが、閉会日を1日早める場合、開場式も1日早めるべきか、例年通りに行い会期を8日間に短縮するか、意見を伺いたい。1日早める場合、10月3日(土)となるが、同日の午前に小林古径邸美術館の開館式典が予定されている。

(副委員長) : 同日に会期が始まれば、相乗効果で観客数の増加が見込めるのではないか。

(事務局) : 3日に式典を行う場合、古径邸の式典時間と重複することは避けたいため午後の開始となるが、よろしいか。

(運営委員) : 異議なし。

(大藏委員) : 写真は市展の中でも入選点数が多い部門だが、展示スペースに合わせて落選させるといったことはしないのか。

(藤野委員) : あまりにも規格外の作品は落選させている。展示スペースについてはまだ余裕がある。今、写真部門では中高生を対象とした講座を開催したいと考えている。これが実現できれば出品点数を約170点まで増加できると予想している。この場合、入選点数は約130点までと考えている。

(事務局) : 事務局としては、市展の一環として実施するのであれば広報や会場使用料のサポートが可能だが、予算については援助ができない。ほかの部門でも若年層向けの企画を考えているのであれば、第1回運営委員会までに事務局までお願いしたい。

(事務局) : (資料13、14ページに基づき説明)

運営委員には例年より3ヵ月早く審査員の推薦をお願いしたい。第50回記念企画「特別展示」で審査員からの作品提供について、事務局と審査員間で交渉期間を設けたいため。

(運営委員) : 異議なし。

(2) 第50回記念企画について

(事務局) : (資料15～25ページに基づき説明)

会期については第50回市展会期に準じるため、第1回運営委員会で決定

する。

(副委員長) : 審査員と運営委員の作品保管場所はどこか。

(事務局) : 9月17日(木)～20日(日)は創作室、21日(月)以降は楽屋を予定している。19日(土)、20日(日)はホールでイベントが予定されており、楽屋が使用できないため。作品の移動は事務局で行う予定だが、立体作品で扱いが難しい作品については運営委員の協力を依頼する場合がある。

(副委員長) : 会場について、検討員会ではピクチャーレールがある部屋ということで研修室・会議室の案が出ていたが、スタジオに比べて奥まった場所にあるため集客面に不安が残る。

(事務局) : 目に留まりにくい点については、床にカラーテープを貼り導線を作ることに対応したいと考えている。今回決めるべき事項ではないため、時間があれば各自で会場の下見をしてもらえればと思う。

(五十嵐委員) : 審査員の作品規格について、平面作品の5kgはすぐに超えると思われる。また、個人的には審査員からは30号程度の作品を期待したい。

(藤野委員) : 冠に「第50回記念企画」とあれば、審査員も大きめの作品や豪華な額を選ぶ可能性が高い。

(事務局) : 作品の重量が課題なのであれば、会場をスタジオにして確実に重さに耐えられる有孔パネルに展示するということになる。

(小林委員) : 会場を見てみないことには決めかねる。

(事務局) : 今回は規格について明確に決めず、審査員には作品の提供を依頼するのみとし、詳細な規格については後日お知らせする、ということによろしいか。

(副委員長) : 今回、審査員の人選については頼みやすい人になると思う。打診の際に大まかな事情を説明し、詳細については後日連絡する、ということとしたい。

(藤野委員) : 謝金2万円は少ないのではないか。

(事務局) : 当初は1万円だったが、検討委員会では梱包手間費及び資材費を含めた場合には2万円ですと十分との意見が出たことから、この額としている。

(押木委員) : 謝金の他に諸々含まれての2万円というよりは、梱包に関わる費用とした

名称にした方がいいのではないか。謝金に梱包関係費を含めて2万円は安いと感じられる。

(事務局) : 図録最終頁について、提案があれば伺いたい。

(副委員長) : 当時を映したスナップ写真を掲載するというのはどうか。

(事務局) : 依頼した場合、新潟日報の当時の記事を掲載することは可能か。

(木村委員) : 2000年からの記事は全てデータ管理している。50年前の記事は、まず探すところから始める必要がある。

(小林委員) : 50年間の市展の歴史ということで、部門、入賞者・作品名、無鑑査の名簿、審査員の名簿等を表にして載せることもいいのではないか。

(藤野委員) : 50年間の審査員の名前であればわかる。第50回市展をどういうコンセプトにするか、という点で重要だと思われる。

(副委員長) : 上越市に携わった人たちでもあることから、意味のあることだと思われる。

(3) 無鑑査出品候補者の推薦について (公開)

(事務局) : (資料26ページに基づき説明)

(副委員長) : 無鑑査に認定することとしてよいか。

(運営委員) : 異議なし。

(4) その他

・作品受付と作品審査補助の業務委託について (公開)

(事務局) : (資料27ページに基づき説明)

(運営委員) : 発言なし。

■閉会

(事務局) : 慎重なご審議ありがとうございました。

9 問合せ先

教育委員会 社会教育課 生涯学習係 TEL : 025-545-9245

E-mail : shakaikyoubu@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。